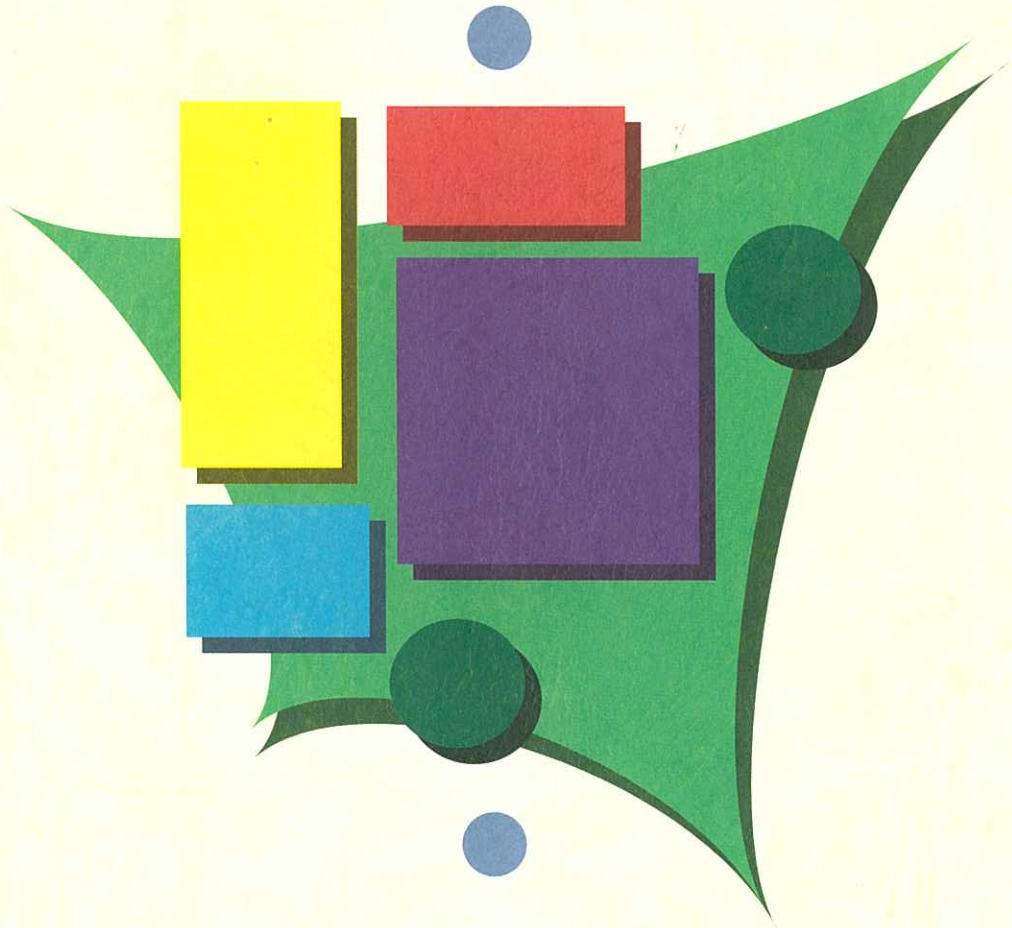


千代田区景観形成 マニュアル

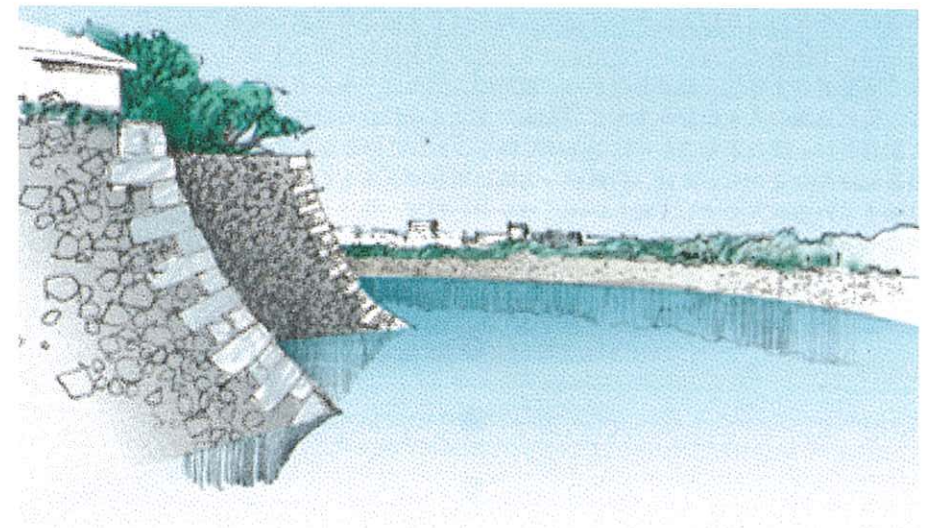


千代田区

千代田区景観形成マニュアル 風格ある都心の景観形成をめざして

千代田区景観形成の基本コンセプト

江戸…東京の中心地として
歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間を活かし、
世界に開かれた国際都心にふさわしい先端性をもった
風格ある都市景観を創出する



1.マニュアルの目的

人々は日々の生活の中で、少しでも快適になろうとして、部屋の模様替えなどの努力を続けます。都心で経済活動が盛んであればあるほど、永遠と続く建物などの個別更新の営みにおいても、そういう努力が積み重ねられるならば、街並みは少しずつ良くなっていくはずです。

しかしながら、個々別々に思いを込めて営みが続くとしたら、必ずしも、そうはならないと思います。個々の努力を面的なつながりとして、また、時間的なつながりの中で記録し、まちづくりに活かしていく作業が必要となります。

このマニュアルが目的とすることは、個別更新事業にあたって、江戸以来形成された地域の魅力を支える環境の質がより良くなるよう、考えるべき、配慮すべき事柄を明確にし、それを共通の言葉として使い、少しずつであるかもしれませんが、確実に景観まちづくりを行っていくことです。

マニュアルが対象とするものは、公的空間、そしてこれと私的空間の境の共的空間を対象とします。いわば、コモン・センス（共有空間に対する意識）を言葉化したものです。

マニュアルは、千代田区の景観形成方針を具体的に展開するキーワードで構成されています。キーワード集は多様な更新事業に対応して、提言しやすくするためにとりまとめたものです。個々のキーワードはまちづくりの理念的なものも含まれますが、質の高い環境形成につながるような言葉をとりまとめています。

各キーワードを構成する「意味」は、何故この言葉が大事か、千代田区の視点でまとめたものです。「対処」は、大事にしているものをどう展開してほしいか方針を示しています。「手法例」は対処の展開方向の参考例を示しています。

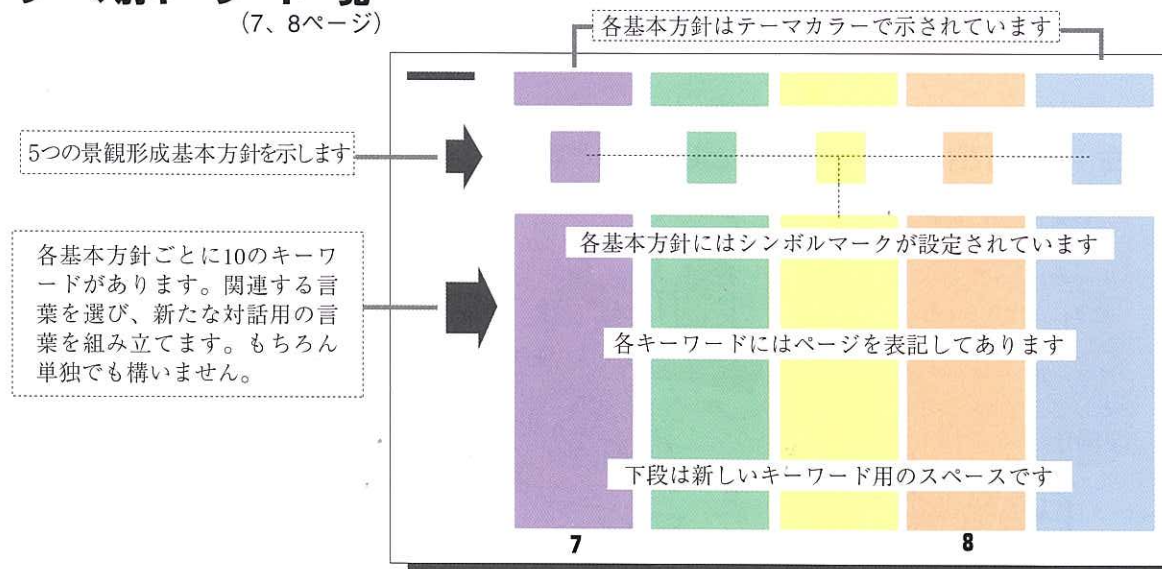
本書は「千代田区景観まちづくり条例」に基づく景観事前協議に道具として使われます。この協議は、千代田区で作っていききたいコモンセンスを最初に明示することで、幅のある解決方法から事業者の主体性を尊重しながら、設計のコンセプトを共有化しようというものです。そして、更に地域の人々に分かりやすい表現でデザイン決定の経緯が説明できることで、言葉として記録され、次のまちづくりにつなげていくことが可能となります。

景観形成のコモンセンスは、行政が一方向的に用意できるものでもありません。マニュアルはより精査されるべきですし、新しいキーワードの提案が望まれます。また、本書は千代田区一般を取り上げております。地域でこのマニュアルがより正確な適切な表現となるよう住民、企業の方々と今後も一緒に考えていきたいと思ひます。

■マニュアルは、次のような構成で編集されています。

テーマ別キーワード一覧

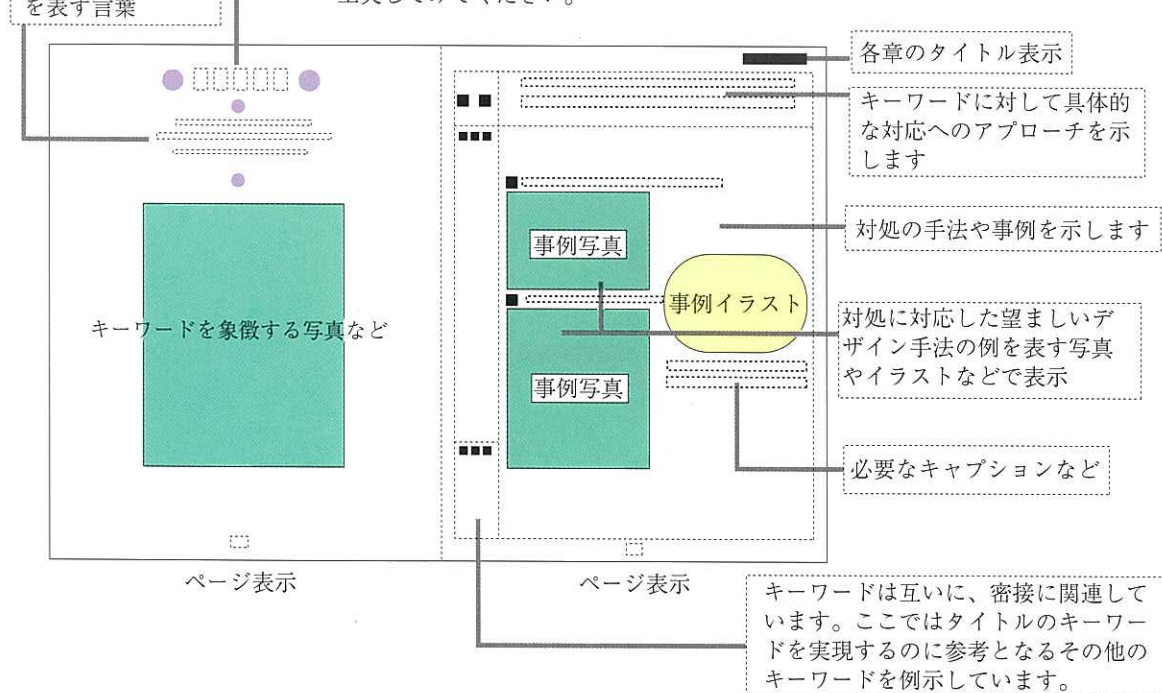
(7、8ページ)



各キーワードの解説ページ (10ページ以降)

キーワードは単独でも使用可能ですが、複数組み合わせることで環境や空間のイメージを伝えやすくなります。

たとえば、大きな枝ぶりのよい樹を取り込んだ計画をするにあたり、キーワードのなかの『陽のあたる場所』に『座れる場所』を設け、さらにちょっとした『小さな人だまり』を作ると、『歩行路のネットワーク』の中間点として整備して行く必要性が見えてくる…と言う具合に、計画の規模に合わせたキーワードの使い方を工夫してみてください。



2.マニュアルの使い方

このマニュアルの大きな特徴は景観形成のために、具体的な言葉をキーワードとして設けている点です。このマニュアルは、当面、次のような場面で利用されることを想定しています。

■大規模建設行為や一般の建築行為等における設計ガイド、自己チェックとして、また施主・設計者と行政の対話の材料としてそれぞれの立場に共通の言葉として用います。

大規模建設行為等の計画段階で、本マニュアルの5つの章から、計画内容に係わるキーワードを複数選び、これらをつづり合わせることでこの計画地のありうべき環境の質を文章化します。そして具体的により良くするための対処を考えます。



これを施主・設計者と行政側（千代田区）の双方が行い、設計者はその文章内容に基づいた計画案を作成します。それによって、共通の言葉を共有しながら事前協議が進められます。また、事前協議にかからない一般の建設行為についても、関連するキーワードに沿って検討してみると、より地域の中での設計コンセプトが明確になると思います。

設計者にとっては設計主旨の構築資料となり、施主にとっては近隣周辺を含めた環境意識の重要性を発見する糸口となります。また施主、設計者の双方が打ち合わせの際の共通言語として活かされるはずです。

■その他将来、地区別のガイドプランや新たなキーワードを検討する際の手引書としての利用も想定されます。



検討しようとする地区の特性、魅力やそれを支える環境の質を調査しに街へ出てみます。そこで感じたイメージを大事にして、このマニュアルから関連するキーワードを選び、地区の特性に合わせて書きかえてみます。また、追加すべきキーワードもあるかと思います。

これらのキーワードを関連付けたり、序列化したりして、地区で特に大事なキーワードを整理してみます。そして、それらを文章としてつづり合わせることで、地区の目標像や景観まちづくりの誘導方向が見えてくると思います。この資料は、後で地区景観形成ガイドプランの基礎資料とすることができます。また、地区での景観協定や地区計画の原案づくりに役立ちます。



■基本方針別 キーワード一覧

基本方針



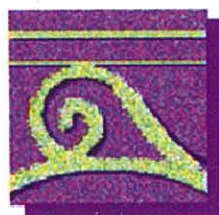
キーワード



新たな言葉...



1.歴史を刻む場所●9



江戸から引き継がれた
まちの歴史的構造を活かす

『心』のより所●	10
眺めの映える場所●	12
年輪を重ねた樹●	14
敷地の履歴●	16
壁の表情●	18
見切りのデザイン●	20
語りかける細部●	22
ふさわしい材料●	24
人を育む場所●	26
先端性の蓄積●	28

●
●
●
●
●
●
●
●
●
●

2.育まれた自然●31

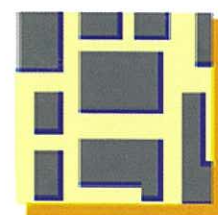


江戸ー東京の歴史を伝える
水辺と緑の自然を活かす

緑の環(わ)●	32
水にふれる場所●	34
敷地の特性●	36
広場から広場●	38
つながる緑●	40
見え隠れの庭●	42
屋上の庭●	44
あいだの緑●	46
身近な花●	48
子供の笑い声●	50

●
●
●
●
●
●
●
●
●
●

3.多様な界隈●53

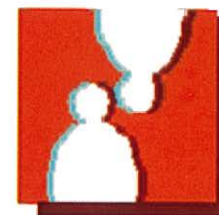


山の手と下町に展開する
まちの個性を活かす

モザイク状の町●	54
プロムナード●	56
あいだにある 住宅●	58
世帯の混合●	60
間口の分節●	62
活きた通路●	64
目立たない設備●	66
見えない駐車場●	68
建物を活かす 広告物●	70
表と奥の表情●	72

●
●
●
●
●
●
●
●
●
●

4.豊かなコミュニティと 繁栄●75



都心に生きる人々に
活気とやさしさを与える

向こう三軒両隣り●	76
歩行路の ネットワーク●	78
交流の場所●	80
人の気配●	82
陽のあたる場所●	84
小さな人だまり●	86
座れる場所●	88
お年寄り●	90
夜のにぎわい●	92
祭りの場●	94

●
●
●
●
●
●
●
●
●
●

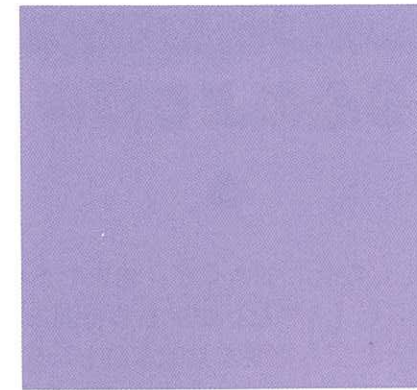
5.首都の風格●97



首都として風格ある
都心の美しさを創出する

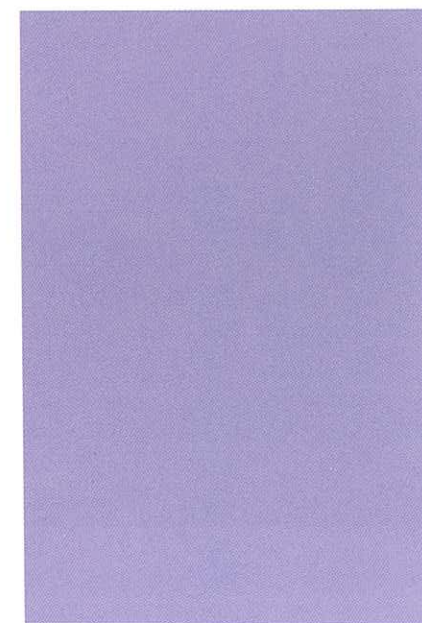
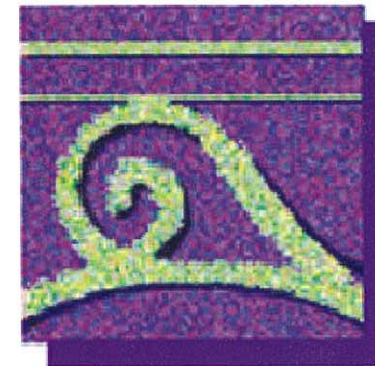
都市の門●	98
通りの性格●	100
中心となる広場●	102
目標となる 建造物●	104
高さの分節●	106
建物の縁(ふち)●	108
門・玄関●	110
柱の雰囲気●	112
ふさわしい色彩●	114
『都』の魅力●	116

●
●
●
●
●
●
●
●
●
●



1.歴史を刻む場所

江戸から引き継がれた
まちの歴史的構造を活かす



●心のより所●

まちなみは時代とともに変化してゆくが、地域やまちには時代を超えて受け継がれていく『きずな』が生きる特別な場所がある。そこは人々の心のより所としても重要な意味を持ち、失なわれることになれば地域の個性や魅力も失われてしまう。



『神明明神』

対 処

心のより所となる特別な場所を守り、受け継ぎ、再生、復活に最大限の努力をする。

手法例

■歴史的文化的財産を保全、継承するだけでなく、その周辺での建造物の計画にあたっては、守るべきものを引き立たせるように配慮する。
また大規模な広告物や工作物の設置はもとより原色の使用はひかえる。

■地形、既存樹木、参道、鳥居などの一つながりでなりたつ場所をむやみに改変しない。



『日枝神社参道』

■心のより所にいたる入り口などにも修景上の配慮をする。



『平将門首塚』

関連キーワード

- 年輪を重ねた樹 ●14
- 人を育む場所 ●26
- 子供の笑い声 ●50
- 祭りの場 ●94

●眺めの映える場所●

地形の変化をたくみに利用して築きあげられた
千代田城（江戸城の別名で区名の由来となる）には、
濠、川の付近、見附や橋、台地の崖線など眺めの映える場所が数多くある。
人々に愛され、受け継がれてきた美しい場所と眺めは、
ここをおとずれる人々の共有財産である。



『三宅坂より桜田門方向を眺める』

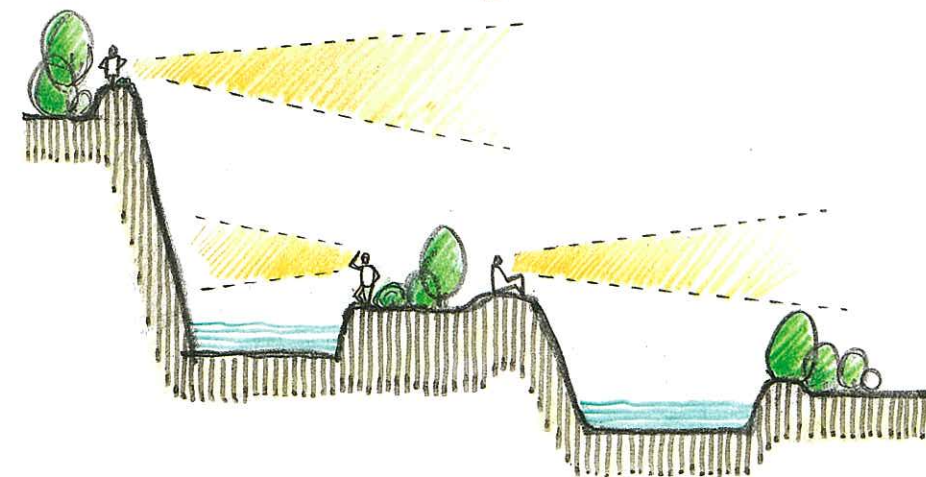
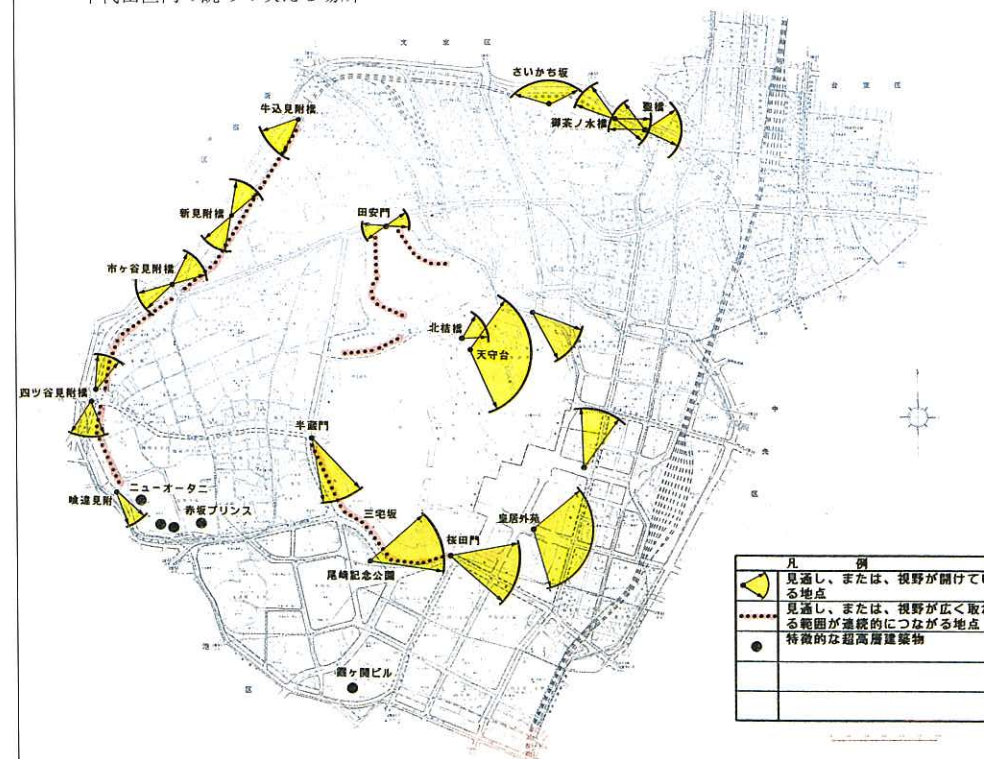
対 処

眺めの映える場所は閉鎖的な構造にせず、共有の場所として、できるかぎりの配慮をする。また眺めの背景となる建物は目立つ場所にあることを意識して全体の景観をそこなわないように配慮する。

手法例

- 眺めの映える場所を建物や工作物で壁のようにおおい隠したりしない。
- 眺めの映える場所が活かされるような歩行者動線を積極的に取り入れる。

千代田区内の眺めの映える場所



関連キーワード

- 緑の環 ●32
- 敷地の特性 ●36
- 歩行路のネットワーク ●78
- 目標となる建造物 ●104
- 高さの分節 ●106

●年輪を重ねた樹●

年輪を重ねた大きな樹は、道行く人々の目標となるばかりではなく、
 そでくつろぎたくなるような包容力や
 安心感を与え、そこに人を誘う力がある。
 人の生涯をはるかに超えた大樹には、同じ生命体として大きな敬意を払いたい。



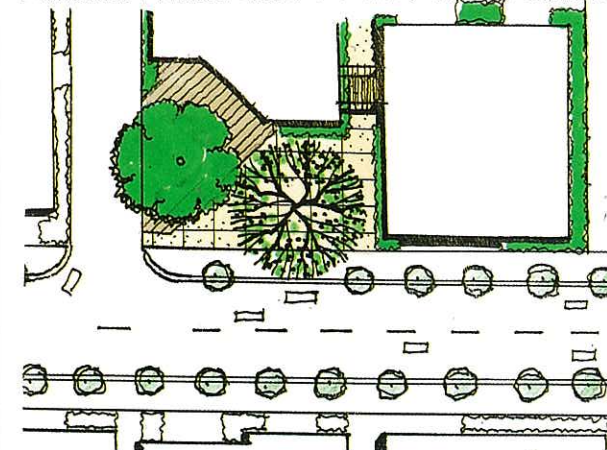
四谷見附の古くから親しまれてきた『エノキの大樹』

対 処

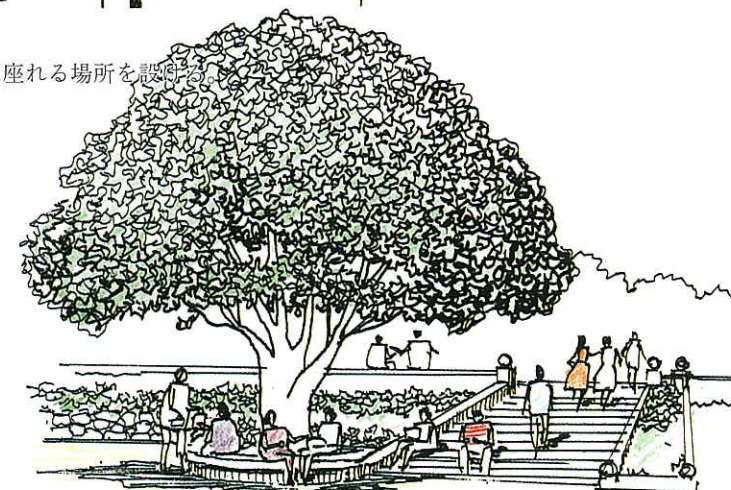
印象的な木々が残された敷地では、可能な限りこれを残す工夫をする。
 大きな木の形が際立つように建物の配置や、外構計画に十分配慮する。
 大きな木のある場所は共有の場として活かしていく。

手法例

- 建替、大規模開発にあっては敷地内にある大樹を残し、これを活かすように計画する。
- 計画によって大樹の位置、樹形の現状保存が無理なときは、移植保存を検討する。
- 新規開発や再開発に際し、シンボルツリーなどを植えることを積極的に検討する。



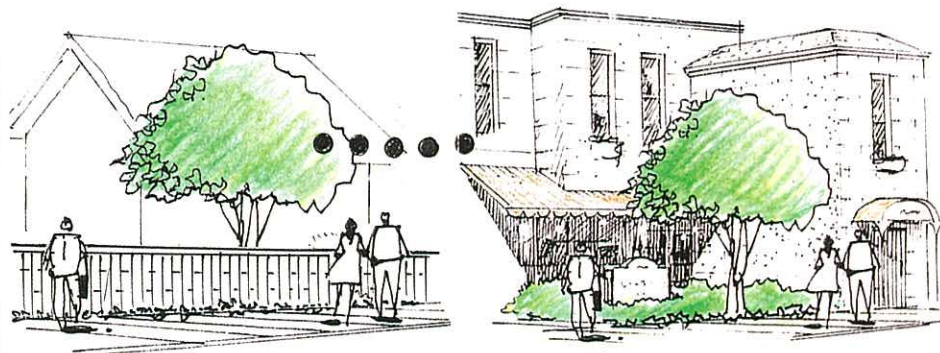
- 大きな木の周囲には座れる場所を設ける。



- まちのなかで、長い間親しまれてきた樹木は新規開発に際しても計画に取り入れる。

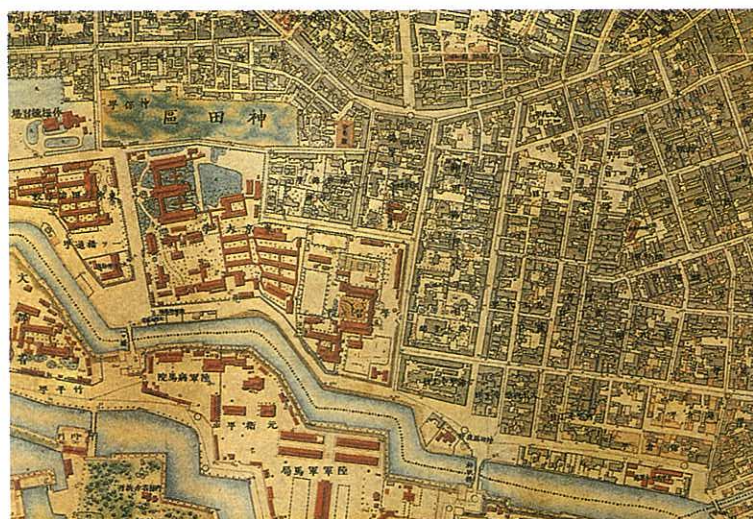
関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 敷地の履歴 ●16
- 陽のあたる場所 ●84
- 座れる場所 ●88



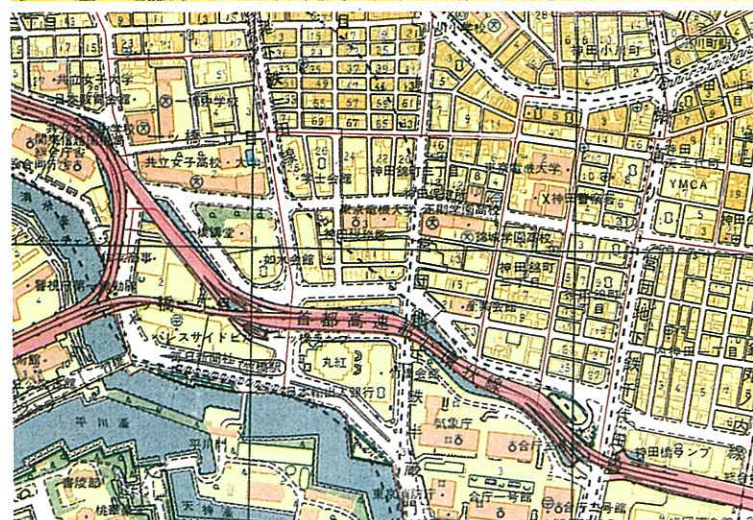
●敷地の履歴●

人に履歴があるように、土地利用にも歴史がある。
敷地には、江戸の町割に規定されながらも
歴史的に継続してきた敷地利用の形態があった。
敷地は過去の使われ方の上に、新たな要素が加わりながら
現在の使われ方になってきた。
敷地の使われ方の歴史を知り、理解することができれば、
そこに計画される建物は地域に自然にとけこむだろう。



明治18年頃

出典／『参謀本部陸軍部測量局 五千分一東京図測量原図』（財）日本地図センター刊



平成2年

出典／『平成二年修正 一万分の一地形図』国土地理院刊

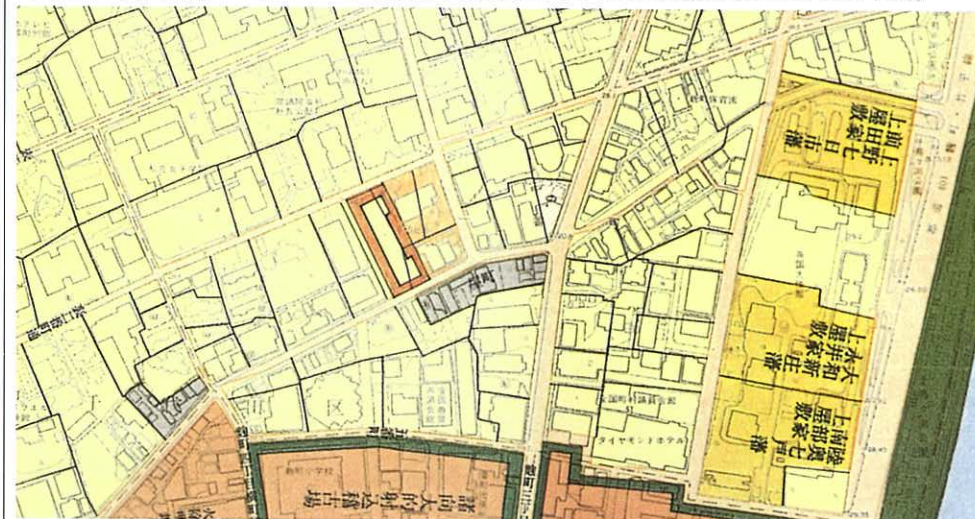
江戸の火除地に作られた大学が、いまでも学生会館やアーツ橋講堂として残る。

対処

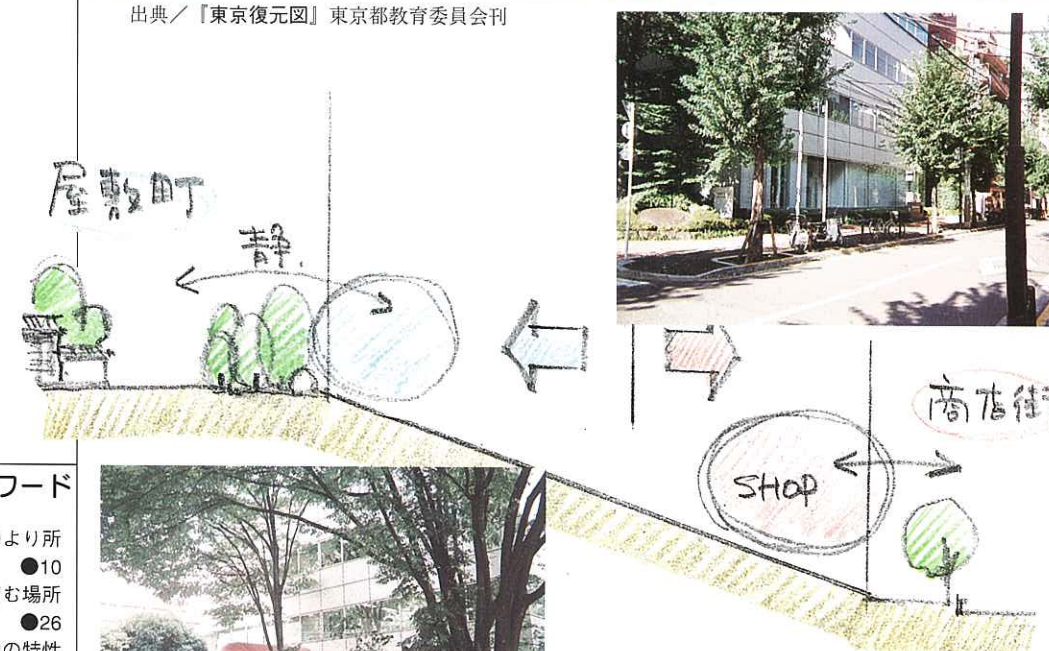
新たに建物を計画する際、まちの移り変わりのなかで踏襲されてきた敷地利用の履歴を踏まえ、これを尊重する。

手法例

- 町や地区単位での変遷図から敷地の履歴を読み込み、計画、設計に反映させるなどである。
- 敷地を共同利用する場合には、歴史的に形成されてきた地割構成を尊重し、計画する。



出典／『東京復元図』東京都教育委員会刊



関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 人を育む場所 ●26
- 敷地の特性 ●36
- モザイク状の町 ●54



尾根道の昔の武家屋敷と谷道の町家のエリアを一団の土地として開発する場合であっても相互の土地の履歴を尊重し、景観などにその風情を踏襲している例。

●壁の表情●

平滑で冷たく硬質な壁は、無表情で人を遠ざける。

表情豊かな壁面は、かたわらを通る人々に

つくった人のセンスやまちの個性を伝えてくれる。

壁は、近寄って触ってみたいくなるような表情や質感が欲しい。



『明治大学石積み擁壁の排水用吐水口』

対 処

通りに面した建物の壁や塀はていねいにつくり込む。特にまちなみに大きな影響を与える建物正面の壁面は、表情豊かに、かつ、主張しすぎずにしつらえる必要がある。

手法例

■まちの歴史を伝える建物の壁面がある場合、そのファサードデザインを継承し、尊重する。



『神保町・文房堂』

■まちなみとのつながりに配慮した表情ある壁面を生み出す。



『九段小学校通学路の階段』

■通りに面した低層部（1～3階程度）の壁面は歩行者の視線に配慮して、ていねいにつくりこむ。



『丸の内八重洲ビル』

■坂の環境に適應させた表情豊かな塀の構成



『英国大使館裏通り』

関連キーワード

見切りのデザイン

●20

ふさわしい材料

●24

通りの性格

●100

建物の縁

●108

門・玄関

●110

●見切りのデザイン●

建物の端部は大地や空と出会うところであり、部材の終わるところは、異なる部材との接点になる。

これらのつながりが十分に配慮されれば、美しい納まりが連続するまちなみとなる。



『DNタワー21』

対 処

部材が終わる端部、部材同士が接合する場所をできる限りていねいにつくりこむ。設計段階の配慮はもとより、特に施工段階においてもおろそかにしない。

手法例

■屋根の終わりが空と出会う（スカイライン）部分は、周辺、地域のスカイラインに配慮してデザインする。



『宮内庁 楽部』



『ニコライ堂』



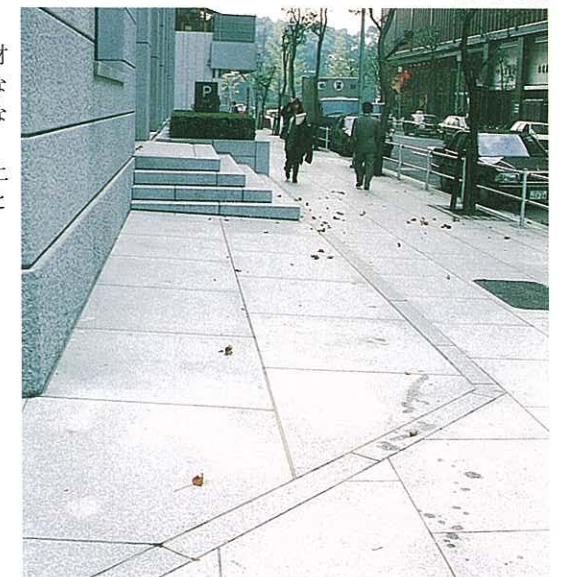
『大正生命日比谷ビル』



『麹町会館』

■建物と敷地が出会う境目、異なる部材が接合するところでは、一段階小さな部材を絡ませてつながりをもたせるなどの配慮をする。

■歩道と敷地の境界部分を、極端な仕上げ材の差を与えず、一体的な仕上げとする。



『DNタワー21』

関連キーワード

語りかける細部

●22

建物の縁

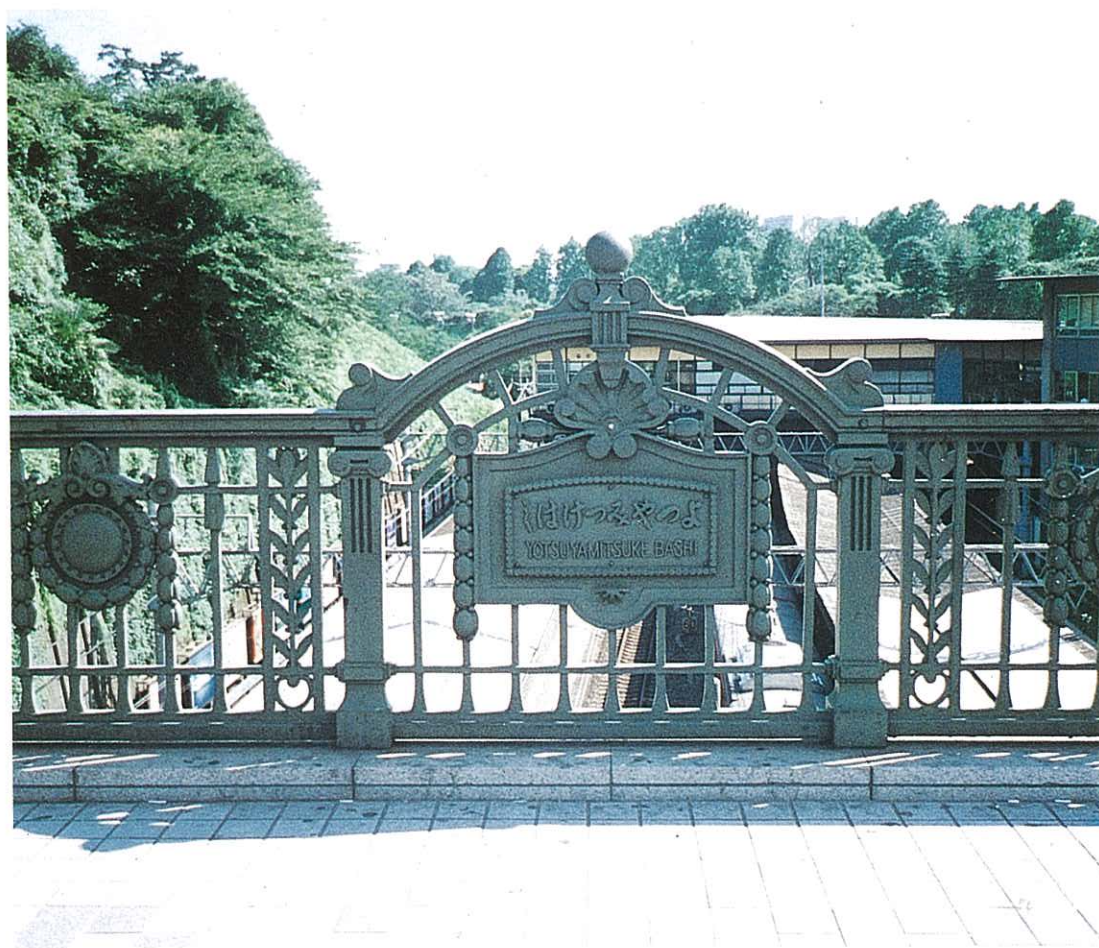
●108

柱の雰囲気

●112

●語りかける細部●

建物などの目立つ部分に、
つくった人のぬくもりや技を感じさせる
小さな装飾が施されていることで、
道行く人はその細部をみて建物全体と対話することができる。



『四谷見附橋』

対 処

建造物と対話できるような質の高い装飾を、デザイン的に取り入れ、適切な場所に施す。

手法例

■力が集まる接合部や見切りの部分、視線が集まる部分などの細部を美しく施す。



『九段会館』

■地域の歴史や個性をモチーフとする。



『DNタワー21』

■時を育む材料を用い、手技でつくり込む。



『神保町にて』

■歴史的な装飾は、建て替えなどにあってもできるだけ保存、継承する。



『明治大学』

関連キーワード

- 見切りのデザイン ●20
- 人を育む場所 ●26
- 先端性の蓄積 ●28
- 柱の雰囲気 ●112

●ふさわしい材料●

コンクリートに囲まれた都心であって、環境や人にやさしい材料を積極的に使用して行くことが求められている。
時間とともに年輪を重ねていく素材や、生態系の回復につながるような材料をできるだけ使用し、環境や人にやさしい作り方を心がけたい。



適度なすきまをつくり、土と石の連続性とリズムが周囲の環境にふさわしい質感をだしている『千鳥ヶ淵緑道』

対 処

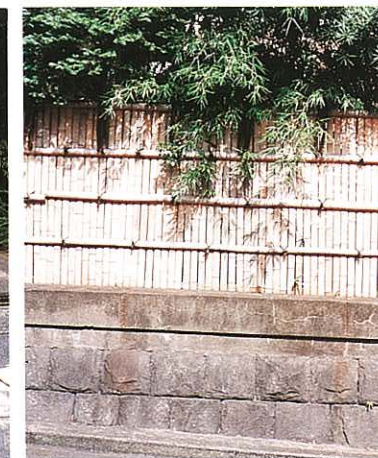
歴史的な雰囲気の色濃く残している場所では、経年変化で美しく風化するような材料が好ましい。また素材の質感、肌触り、きめを活かすような配慮をする。

手法例

■人が触れる部分は特に肌触りの良いやさしい材料を用いる。
■草が生えたり、苔むす様な材料、浸透性のある舗装材、すき間が味わいを表現している舗装面、リサイクルの可能な材料、経年変化で美しくなる材料など、その場所になじむ材料を積極的に採用する。



かつての都電の敷石を利用した『明治大学図書館前』



『麹町にて』

■歴史的な建物の建て替えなどにあって、利用できる材料があればこれを積極的に適切な場所で再利用する。



『日比谷ダイビル』

関連キーワード

- 敷地の履歴 ●16
- 見切りのデザイン ●20
- 人を育む場所 ●26
- 子供の笑い声 ●50
- お年寄り ●90

●人を育む場所●

都心のまちは、さまざまな人を育む条件を備えている。
学び、仕事を覚え、一人前になり、そして巣立っていく。

それが都心での「人の物語」であった。

まちには、幼少期から成人し、老年へ至るまでの
さまざまな段階で、記憶に残るような場所が必要である。



『清水門』で記念写真を撮りあう卒業生*

対 処

人が成長する各段階で必要とされる環境がバランスよくまちの中に用意されること。たとえば…

誕生日、まちへの冒険、学校、いろいろなクラブ、卒業、就職、結婚、近所付き合い、仕事、商売、子供・孫の誕生、自宅建築、趣味、隠居、別れ…など。

手法例

■人が育つために必要な「通過儀礼」の慣習と場所を尊重する。

■まちのなかに通過儀礼の記憶が残されるような場所づくりや雰囲気づくりの演出を試みる。



関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 子供の笑い声 ●50
- モザイク状の町 ●54
- 祭りの場 ●94
- 『都』の魅力 ●116

このページの写真は全て*

●先端性の蓄積●

都心は日々更新されていくが、
地域の繁栄の歴史を残す建造物などが
身近に蓄積されることで、都心は先端的な文化や
すぐれた都市環境を保持することができる。



出典／『法務省・赤煉瓦棟』 新建築社 1996

対 処

これまで蓄積された先端的な文化や都市環境を尊重し、まちの繁栄を持続させる。その上で、先端的な文化を生み出す基盤を築いていく。

手法例

■歴史的に形成されてきた地区を多角的に分析し、特徴や重要性を十分踏まえたうえで新しい試みを取り入れ、先端性を構築する。



『お茶の水スクエア カザルスホール』



『DNタワー21』



当時最先端の技術で造られたオフィスビルの代表格『丸ビル』

関連キーワード

- 敷地の履歴 ●16
- モザイク状の町 ●54
- 目標となる建造物 ●104
- 『都』の魅力 ●116